

# 令和6年度岡崎市教育研究大会レポート

1

11A 英語（小）

岡崎市立上地小学校 天野 圭祐

## 主体的に追究する児童の育成 —「個別最適な学び」と「協働的な学び」を生み出す 外国語科の授業を通して—

### 2 研究概要

#### (1) 主題設定の理由

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会，2021）では、今後の教育課程の在り方について、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには、新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちに多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められるとされた。同答申の中では、「個別最適な学び」について「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるように指導することが重要であるとされている。また「協働的な学び」については、探求的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう指導することが重要であるとされている。

上記の内容を、小学校における外国語の授業にあてはめたとき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を以下のように定義づけられるのではないかと考えた。

#### ◆外国語科における「個別最適な学び」

「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせ、自分の目標実現に向け、学習方法を選択し、自分の思いや考えを適切に表す表現内容や表現方法を試行錯誤しながら獲得し、活用していく学び。

#### ◆外国語における「協働的な学び」

「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせ、互いの思いや考えを共有する学び合いを通して、見方・考え方を豊かにしたり、互いに理解を深めたりする学び。

以上のことから、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を授業の中で効果的に取り入れることで、児童自身が自己の学びを調整したり多様な他者と協働したりして、より主体的に追究する児童の育成につながると考え、本研究実践を進めていくこととした。

#### (2) 目指す児童像

本研究で目指す、「主体的に追究する児童」の姿を次のようにとらえた。

#### 「主体的に追究する児童」

◇様々な言語活動を通して、自ら学習方法を選択したり、自分の学びを振り返ったりしながら自分の目標実現に向けて粘り強く努力する姿。

◇多様な他者との関わりを通して、互いの考えを意欲的に伝え合ったり、自己の考えを広げたりする姿。

#### (3) 研究の仮説と手だて

目指す児童の姿を具現化するために、次のような仮説と手だてを考えた。

【仮説Ⅰ】単元の目標を設定したうえで、ICTを効果的に活用しながら、自ら学習方法を選択したり学びを振り返ったりする場を設定すれば、児童は学習の成果や次への課題を実感しながら目標に向けて粘り強く学習に取り組んでいこう。

#### 【手立て①】 帯活動としてのタブレット端末の効果的な活用

児童一人ひとりのタブレット端末に、教師が録音した英語表現集をダウンロードし、いつでも繰り返し開けるようにしておく。毎回の授業で「イングリッシュ・トレーニングタイム」という帯活動を設定し、英語を聞きながら学習できる時間を確保する。

#### 【手立て②】 振り返り活動の充実

単元を通して、振り返りシートを書く時間を設定する。この振り返りシートには、授業でできるようになったことや、次に意識したいことなどを書けるようにする。また、目標の達成に向けて、自分が発表している様子を動画で撮影して繰り返し見返すことができる、「動画による振り返り」を行う。

【仮説 II】多様な他者と関わる場を与えたり、目的や場面、状況を設定したうえで言語活動を設定したりすれば、児童は既習表現を活用して英語を伝えようとする中で、会話が成立する達成感を味わったり、活動を通して自己の考えがより深まったりするだろう。

【手立て③】 **帯活動としてのスモールトーク**

「CME(チェック・マイ・イングリッシュ)タイム」という帯活動を設定する。相手を変えながら、会話活動を繰り返す中で、練習の成果を発揮し、会話が成立する喜びや達成感を味わえるようにする。また、活動の中で出た「言いたくても言えない表現」を掲示物に蓄積していく。

【手立て④】 **児童の興味・関心を引き出す場面設定**

「希望する会社に就職するために、英語で面接試験を行う」という設定で、できることや好きなことなど、自己アピールすることを、パフォーマンステストの内容とする。また、会社の募集人材の内容を示すことで、より自分に合ったアピールポイントを考えられるようにする。

**(4) 抽出児童(児童A)について**

児童Aは、何事にも前向きに取り組むことができる児童である。英語の授業にも意欲的に取り組み、教師からの質問などにも率先して答えることができている。パフォーマンステストの際には、練習してきたスピーチや会話はそつなくこなすものの、目線を前に向けたり、ジェスチャーを付けたりすることを不得意に感じている様子であった。

本単元前のアンケートでは、「英語の授業は好きだ。」と答えている。英語の歌やチャンツの活動を楽しいと感じる一方で、5領域の中で特に「話すこと」に対して苦手意識を持っていることがアンケート結果から分かった。また英語の授業中、どんなことに困るか聞くと、「言いたいことをどんな風に言えばいいか分からないときに困る」「ALTの先生と上手に会話できるようになりたい」と答えた。本単元を通して、自分の学びを振り返ったり、他者と積極的に関わり合ったりしながら、最後には英語を楽しみながら使う児童Aの姿を期待したいと願った。児童Aの変容を追いながら、手だての有効性を検証していくことにする。

**(5) 単元計画 単元：Unit 3 Can you play dodgeball? (8時間完了)**

段階	時	学習活動	児童の意識	手立て
基礎基本となる英語表現を習得する	1	<u>【できることについてのやり取りから、具体的な情報を聞き取ることができる】</u> ◇英語の歌やチャンツに親しむ。 ◇イラストを見たり、音声を聞いたりして、場面や会話内容を推測する。 ◇単元終末の目指す姿を確認する。	・新しい英語の歌やチャンツを知ったよ。 ・音声を聞いただけで、なんとなく会話の予測がついたよ。	【手立て①】 【手立て②】 【手立て③】
	2	<u>【できることについてのやり取りの表現に慣れ親しむことができる】</u> ◇英語の歌やチャンツに親しむ。 ◇アニメを見て、聞き取った重要な表現を使ってやり取りする。 ◇”can”を使って「できる」を表現することを知る。	・前の時間に予測した会話の内容がだいたい合っていたよ。 ・”can”を使えば、「～できる」を英語で言えることが分かったよ。	【手立て①】 【手立て②】 【手立て③】
	3	<u>【できることやできないことについて、友達と伝え合うことができる】</u> ◇英語の歌やチャンツに親しむ。 ◇”can”や”can’t”を使って、できることとできないことを友達と伝え合う。	・できることだけでなく、できないことも伝えられるようになったよ。 ・相手に質問して、答えてもらったよ。	【手立て①】 【手立て②】 【手立て③】

**面接で自己アピールして、就職したい会社したいに入社しよう**

課題達成に向けて	4	<u>【就職したい会社を一つ決め、自己アピールの内容を考えることができる】</u> ◇パフォーマンステストに向けた場面設定を知り、自己アピールの内容を日本語で考える。	・どの会社の面接試験を受けようか決めたよ。 ・英語で「早起きが得意」ってなんて言うんだろう。	【手立て①】 【手立て②】 【手立て③】 【手立て④】
	5	<u>【自己アピールの内容を英語に直すことができる】</u> ◇タブレット端末やALTの力を借りながら、前時で考えた自己アピールの内容を、可能な限り簡単な英語に直していく。	・タブレットで調べたら、言いたい英語が分かったよ。「早起き」は”get up early”って言うんだ。 ・ALTのマルピン先生も相談に乗ってくれたよ。	【手立て①】 【手立て②】 【手立て③】

<b>努力する</b>	6 ・ 7	<b>【面接試験本番に向けて繰り返し練習できる】</b> ◇個人、ペア、ALT と、ビデオで録画して、など様々な練習方法を繰り返しながら、パフォーマンステストに向けて英語表現を高めていく。	・緊張するけど、ビデオで撮影した自分を見たら、ジェスチャーができていなかったよ。 ・もっと練習しよう。	<b>【手立て①】</b> <b>【手立て②】</b> <b>【手立て③】</b>
<b>課題の達成</b>	8	<b>【練習の成果を発揮して、面接試験に臨もう】</b> ◇最終練習時間を確保して、リハーサルを行う。 ◇クラス全員を面接官と見立て、練習してきた自己アピールを前に立って発表する。 ◇発表を振り返る。	・練習の成果を発揮して、面接官の目を見て堂々と発表できたよ。 ・次はもっとジェスチャーを付けながら笑顔で伝えたいな。	

### 3 研究の実際

#### (1) 基礎基本となる英語表現を習得する段階（手立て①②③）

本実践で扱う、Unit 3 Can you play dodgeball?は、お互いのことをよく知るために、できることについて、聞き取ったり伝え合ったりすることを目指す単元である。主な表現として、Can you ~? / Yes, I can. / No, I can't. / I can ~. / I can't ~. などがある。主な語彙としては、動作や楽器、海の生き物、スポーツなどが含まれる単元である。

さて、英語での会話や発表を成立させるためには、基礎基本となる単語や英語表現の学習が必要不可欠である。正しい発音やイントネーションで多くのインプットをすれば、アウトプットとなる今後の会話活動にもスムーズにつながると考えた。

まず1つ目は、歌やチャンツを中心とした帯活動である。デジタル教科書内部にある英語の歌やチャンツはとても有能であり、音やリズムを楽しみながら、使えるようになってほしい英語表現を自然とインプットできる。教師の操作も簡単で、歌やチャンツについては、様々なバリエーションも利用可能である。例えば単元開始直後であれば、スピードを「ゆっくり」にして児童が口ずさみやすいように工夫した。慣れてきたころには、スピードを上げたり、必要に応じてカラオケやアカペラを織り交ぜたりしながら利用した。児童によっては歌やチャンツを単純に繰り返すことに飽きを覚える者もいるので、そうさせないように工夫することが必要である。また、ALTの先生にも手伝ってもらいながら、流れてきた歌詞を止め、全体でリピートするなど、歌やチャンツを通して基礎基本となる単語や英語表現の定着を図った。

次に、手立て①としてあげた、「帯活動としてのタブレット端末の効果的な活用」である。私の学級では、クラス全員が参加している Teams のチームがあり、各教科の資料などをデータでアップロードして児童が見たいときに見られるようになっている。本単元で目指す「個別最適な学び」を実現させるために、単元開始前に基本表現となる英文を数十個録音し、アップロードをした。**資料1** can を使った英語表現だけでなく、「今日の天気はどうか」や「誕生日には何がほしいですか」など既習表現も聞き取ったり、発音できたりできるようにした。45分の授業の中で、最後の5分間を「イングリッシュ・トレーニングタイム」と題し、各自イヤホンをつけてひたすら英語を聞いたり発音したりするようにした。**資料2** 始めたばかりのころは、操作にとまどったり、英語を言うのが恥ずかしいような雰囲気があったりしたが、次第に緊張感がほぐれ、「トレーニングタイムには英語をたくさん聞いて発音する」という意識が定着していった。児童Aもこのトレーニングタイムに意欲的に参加した。その様子を、資料3のように振り返っている。

**資料1 生徒用タブレット画面**



**資料2 トレーニングタイム**



**資料3 児童Aの振り返り（トレーニングタイム）**

What sport do you like?の質問が上手に言えなかった。次は、鳥のように飛べますか?を言えるようにしたい。練習しているうちに、今まで言えなかった表現を言えるようになってきて、うれしい。

基礎基本となる単語や英語表現を授業で学習した後は、それらをアウトプットする場が必要である。そこで、手立て③帯活動としてスマールトークを継続的に行っていくことにした。名付けて「CME (チェック・マイ・イングリッシュ) である。この活動は、本研究で目指す「協働的な学び」の一つとして位置付けている。毎回の授業の最初の3分程度を使って、クラスを自由に歩き回り見つけた仲間と英語で会話をしていく。会話の内容は、手元に CME カードに書いてある。どれも既習表現あるいはタブレットに音源が録音されている表現となっており、一つ質問したらペアを変えて、

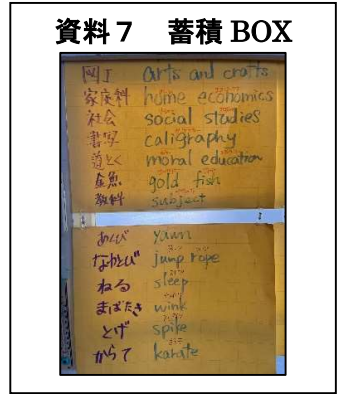
できるだけ多くの質問を友達にしようと呼び掛けた。資料4・5が、実際のCMEカードと活動の様子である。友達に質問して、答えてもらったら印をつけていくようにし、またカードにすることで学びの足跡が分かるようにした。このCMEカードの質問文は、トレーニングタイムの録音音声の内容を一致するようにした。そうすることで、CMEで言いたくても言えなかった表現を、トレーニングタイムで練習することができるためである。このCMEの活動について、児童Aは資料6のように振り返っている。

**資料4 CMEカードと活動の様子**

**CME ~CHECK MY ENGLISH!~**

5-1( ) - Name ( )

クラスの誰かに、ワクエスチョン!	6/	6/	6/	6/	6/	6/
①今日は何曜日ですか。						
②今日は何月何日ですか。						
③名刺のつづりを教えてください。						
④誕生日はいつですか。						



**資料6 児童Aの振り返り (CME)**

友達と英語でたくさん会話をできて、楽しかった。難しい質問もあったけど、teamsに追加された英語を聞いたから、言えるようになった。質問されてもうまく答えられないものもあったから、きちんと答えられるようにしたい。

この活動の後には、必ず「会話の中で、言いたくても言えなかった表現ってなかったか」を、クラス全体に尋ねるようにした。例えば、「好きな教科は何ですか」と聞くことはできても、答えられない児童が一定数いた。今まで言えなかったことを言えるようになることは、英語を学習する子供たちにとってよい機会と感じた。(資料7)

**(2) 課題達成に向けて努力する段階【手立て①②③④】**

さて、ここまで帯活動を含めて基礎基本を学習してきた児童たち。"can"や"can't"を使って、できることやできないことを表現したり、"Can you"を使って相手のできることを聞いたりしてきた成果を、パフォーマンステストという形で発揮する場面がやってきた。本時から、手立て④として、具体的な目的や場面、状況を児童とともにに行った。"can"の習得をターゲットとし、なおかつ英語を使う必然性がある場面設定をするのに苦慮したが、資料8のような設定を行うことにした。

**資料8 パフォーマンステストに向けた場面設定**

**今はグローバル時代。英語が使えなければ、どんな会社にも入社できない…。さて、あなたは就活生。もうすぐ、ある会社に入社したいと考えています。しかし!その会社に入社するためには、英語による面接試験があるのです!「自分ができること・好きなこと」を存分にアピールして、合格を勝ち取ろう!**

A社	B社	C社	D社	E社
株式会社 AMANO	アマテレビ	KEI Sports	レストラン キズナ	うえじパン
主にゲームを作ったり、パソコンで作業をしたりしている会社です。勉強熱心な人、パソコンが使える人、大歓迎です。	全国にニュースをお届け留守テレビ局です。お話が上手な人、英語が話せる人、勉強熱心な人、大歓迎です。	全国各地で、スポーツジムを運営しています。運動が得意な人、大歓迎です。	安い値段で料理を提供している、人気料理屋です。料理が得意な人、好き嫌いがいない人、大歓迎です。	地元で古くから愛されているパン屋です。朝起きが得意な人、パン作りに興味がある人、大歓迎です。

文章による場面設定に加え、イラストを付けたオリジナルの会社を5社提示することで、児童生徒の興味関心をひくように工夫した。また、その会社がどんな人材を希望しているのかを詳しく書いておくことで、自己アピールの内容を考えやすいようにした。児童自身で会社を選び、また内容を考える点において、学習が個別化できるようにした。

児童たちは、一斉にどの会社に入ろうか、自己アピールの内容はどうしようか、考え始めたり、同じチームの仲間と相談したりし始めた。資料9は、実際の児童Aのワークシートの一部である。Aは、C社に入社することを目指しており、「KEI SPORTS」で採用されるために、体力や運動自慢であることや、誰かに教えることができだということをアピールする内容にした。(筆者が赤枠で示した内容)

**資料9 児童Aの案**

① C社 <span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">運動が強い</span> ok.	I like exercise
② 頭がいい ok.	I'm greda
③ お話の上手い ok.	I like things
④ おく力強い ok.	I'm strong

また、資料9からは見て取れないが、実際の面接試験では、自分自身の短所もよく聞かれることを伝えたいので、自分ができないことや苦手なことも1つ～2つ言えるようにしておくことを伝えた。児童Aは、体がかたいことと持久力があまりないことを内容として考えていた。

内容を日本語で考えた次は、それらを英語に直していく活動に入る。といっても、いきなり英語に直せるわけではないので、ここでは様々な学習の選択肢を整えて、児童が自分で調べたり、聞いたりできるようにした。具体的には、①チームで相談してよいこと②先生たち(ALTも含め)に相談してよいこと③タブレット端末の辞書機能を使って調べてよいこと④タブレット端末の録音音声を活用してよいこと等を児童に示した。③については、検索した結果をそのまま使用せず、必ず教師に確認するように伝えた。④のタブレット端末の録音音声については、事前に回収した児童のワークシートをもとに改めて英文を録音し、アップロードしておいた。ここまでの活動を、児童Aは資料10のように振り返った。

**資料10 児童Aの振り返り(パフォーマンステストに向けて内容を考える)**

ぼくは、C社のスポーツジムに入社することを決めた。「運動が得意」を英語でエクササイズと言うことが分かって、びっくりした。タブレットの見本音声も役に立った。

内容を考えたあとは、いよいよ面接練習に入っていく。練習の手順として、以下のものを児童に示した。

【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】
自分が話す英語をスラスラ言えるようにする。	ジェスチャーを考えて、やってみる。	友達や先生に見てもらい、アドバイスをもらう。	ビデオ撮影1回目を行う。	ビデオ撮影2回目を行う。	最終リハーサルをする。

(※児童には、活動の最中に前段階に戻ってもよいことを伝えた。)

では、児童Aのビデオ撮影による練習を中心に、活動の様子を述べていく。【1・2】まで終えた児童から、個人練習を終え友達や教師とのやり取りに代わっていった。事前に、友達の面接官をやってあげたら、必ずアドバイスをするように伝えた。児童Aも友達との練習の中で、「もっとジェスチャーをつけるとよい」「はっきり言うとよい」などのアドバイスを受けていた。それらのアドバイスを生かしながら、その後の各自ビデオ撮影による練習に入っていた。(資料11)

児童たちにとって、自分が英語を話している様子を自分で撮影するのは初めての経験だったようで、最初はかなり緊張していた様子だったが、次第に全員が取り組めるようになっていった。ビデオ撮影は2回程度やることを伝えたが、児童Aは2回にとどまらず3回4回と、本番への自信をつけるために取り組んでいった。撮影が終わると、児童たちからは「ずっとプリントを見てしまって、カメラを見ることができなかった」や「英語を話すのに必死で、練習したジェスチャーができなかった」など、練習を振り返る言葉が多く聞かれた。資料12と13は、児童Aの発話記録である。①から②への発話記録の変化の様子を見ていく。

発話記録①では、「I...I...I'm good at exercise.」や、「Oh...Ah...」のように、発話がとぎれとぎれの部分があった。また、「教える」を「study」を表現してしまうなどの間違いが見られた。この動画を振り返って児童Aは資料13のように記述した。

**資料13 児童Aの振り返り(ビデオ撮影①)**

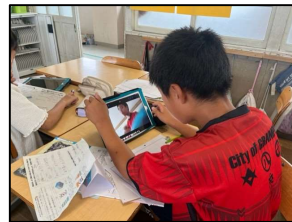
話をしている間に、あ～とか、え～とかを言ってしまう。あとは、全体的に声が小さいので、もっと大きな声で言いたい。あとは、もっとジェスチャーも大きくしたい。

発話記録②では、①と比べて、途中途中でとぎれることは少なくなった。また、間違えていた「study」の部分は、ALTの先生からアドバイスを受けて「teach」と正しい単語に代わっている。また、①ではジェスチャーが一部にしかなかったのが、②ではほぼすべての表現にジェスチャーが付くようになった。この動画を振り返って児童Aは資料15のように記述した。

**資料15 児童Aの振り返り(ビデオ撮影②)**

前にとったビデオよりも、ジェスチャーができるようになった。声も大きな声を出せるようになった。あとは、アイコンタクトに気を付けて、次回の本番をがんばりたい。

**資料11 児童A練習の様子**



**資料12 児童A-発話記録①**

Hello.  
My name is \_\_\_\_\_.  
I...I...I'm good at exercise.  
I like study.(教えるジェスチャー)  
Oh...Ah...  
I'm smart.  
I can play soccer.  
I don't like marathon.

**資料14 児童A-発話記録②**

Hello.  
My name is \_\_\_\_\_.  
I'm good at exercise.  
I like teach.  
I'm smart.  
I can play soccer.  
I don't like marathon.  
(ほぼすべてにジェスチャーあり)

ALTの先生にも見てもらい、ビデオ撮影も繰り返す中で、着実にパフォーマンステストへの自信がついていった児童A。最終リハーサルをして、面接試験本番となる。

### (3) 課題の達成

本単元の8時間目にあたる本時は、入社試験本番という位置づけになる。発表者以外は全員面接官という設定で、机を下げ、椅子だけをもって前に集まった。それぞれ練習の成果を發揮していく中、面接官役の児童たちからは自然とうなずくような反応が見られたり、大きな拍手をもって、ここまでの頑張りを称えたりする様子が見られた。

児童Aは、資料16にあるとおり、大きなジェスチャーを織り交ぜながら、堂々とした声で面接試験をしっかりとやり遂げた。面接官役の他の児童からも大きな拍手を浴びた。終了後、「おれは合格だった？」と聞かれ、教師は「もちろん、合格だよ」と伝えた。とても嬉しそうな表情をしていた。児童Aは、面接試験本番を終えて、資料17のように振り返った。



#### 資料17 児童Aの振り返り(面接試験本番後)

今まで何度も練習してきたので、今日は練習の成果が發揮できた。
発表しながらジェスチャーも大きくできて、とても楽しかった。みんなの発表も、声が大きくジェスチャーもあって、いいなあと思った。

## 4 研究の成果

### (1) 【仮説Ⅰ】に迫る手だてについて

【手立て①】 **帯活動としてのタブレット端末の効果的な活用** について検証する。帯活動として、タブレット端末に録音された音声を使って、英語表現を個別で学習する「イングリッシュ・トレーニングタイム」を設定した。5分間の中で、聞きたい英語を何度でも繰り返し聞いたり、発音したりする環境を整えた。資料3の児童Aの振り返り「今まで言えなかった表現を言えるようになってきて、うれしい」という記述からも、学習の成果を実感していることが分かる。

【手立て②】 **振り返り活動の充実** について検証する。毎時間の最後に、振り返りシートを書く時間を設けた。児童自身が学習したこと成果や、次の授業での課題を書くようにした。また、パフォーマンステストに向けては、自分で動画を撮影しそれを見ることによる振り返りにも取り組んだ。資料13・15の児童Aの振り返りからも、課題意識をもち、目標に向かって粘り強く取り組んだ様子が分かる。

以上の成果から、【手立て①】【手立て②】は有効に機能し、【仮説Ⅰ】は実証されたといえる。

### (2) 【仮説Ⅱ】に迫る手だてについて

【手立て③】 **帯活動としてのスモールトーク** について検証する。

毎時間の最初に「CME タイム」を設定し、相手を変えながら既習表現を使って質問し合う活動を行った。また、活動の中で「言いたかったけど言えなかった英語」を掲示物として蓄積していった。資料6の児童Aの振り返り「たくさん会話ができてうれしかった。質問されてもうまく答えられないものもあったから、きちんと答えられるようにしたい」からは、会話が成立した達成感がうかがえる。

【手立て④】 **児童の興味・関心を引き出す場面設定** について検証する。「希望する会社に就職するために、英語で面接試験を行う」という設定で、できることや好きなことなどを自己アピールするというパフォーマンステストを設定した。児童たちは、自分が選んだ会社に入るために、面接内容を自分たちで考えたり、時には友達やALT、タブレット端末の力も借りたりしながら、面接試験という設定にのめりこんでいった。資料12~17の児童Aの振り返りからは、練習の成果が十分に發揮されたり、自分の考えがより深まったりしていった。また自分の課題だった「声やジェスチャー」も克服されたことが分かる。

以上の成果から、【手立て③】【手立て④】は有効に機能し、【仮説Ⅱ】は実証されたといえる。

## 5 おわりに

小学校外国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現にあたっては、さらなる検討の余地がある。それら繰り返していく先に、児童が主体的に英語を学んでいく姿があるのだと思う。本研究で述べた以外にも、児童がより英語を学習したいと思える環境作りを着実に積み重ねながら、今後も「主体的に追究する児童の育成」を目指して研鑽を積んでいきたい。

### 『参考資料』

○小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 文部科学省 平成29年7月

○『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての児童たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』

中央教育審議会 令和3年1月